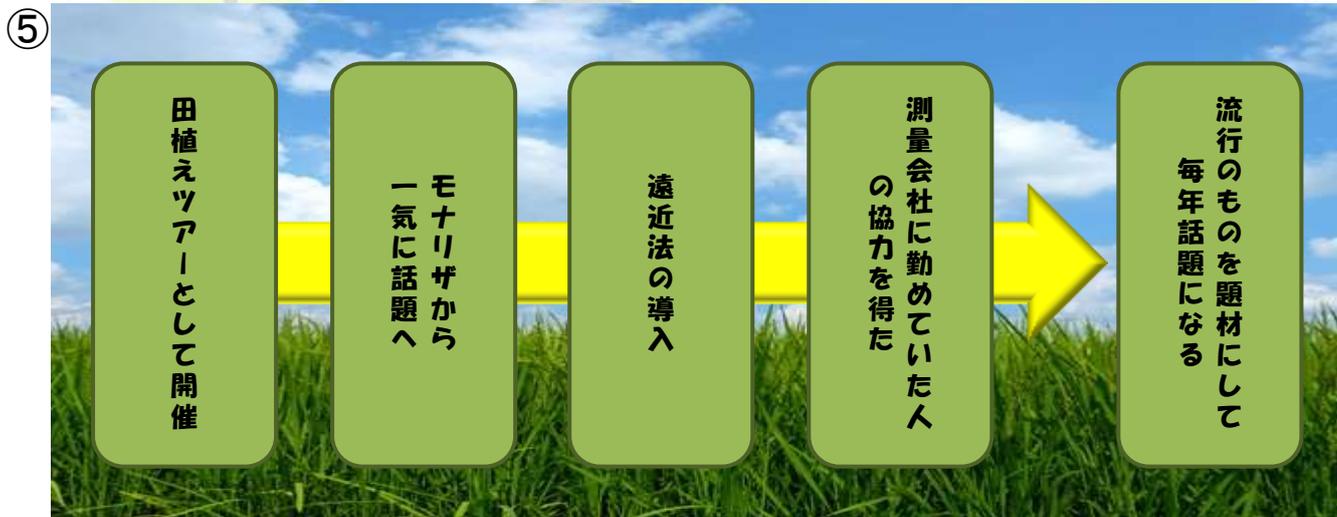


② ③ 田んぼアート

④ 青森県にて始まった田んぼアート。今や日本全国に広まり話題となっております。この田んぼアートについて、ご紹介いたします。

◆田んぼアートの歴史

田んぼアートは、1993年、青森県南津軽郡田舎館村にて始まったのが最初です。村おこしの一環として始めた田植え体験ツアー。その中でさまざまな稲を使い文字と岩木山を描いたのが最初の田んぼアートです。このころはまだ「稲文字」と呼ばれていましたが、その後、田んぼアートと呼ばれ話題となり、毎年各地から多くの人々が訪れるようになりました。2001年までは同じ絵柄でしたが、翌年新たなデザインになり、2003年には「モナリザ」を題材とし、アート性が高まりました。しかし、観光客から「太ったモナリザ」と指摘を受け、遠近法の導入を始めました。それからは毎年話題となったものを題材としています。



⑥ *田んぼアートの年表

⑦

年	第 1 会 場	第 2 会 場
2012	悲母観音と不動明王	七福神、マジンガーZ
2013	花魁とハリウッドスター	ウルトラマン
2014	富士山と羽織伝説	サザエさん
2015	風と共に去りぬ	スター・ウォーズ／フォースの覚醒
2016	真田丸	シン・ゴジラ
2017	ヤマタノオロチとスサノオノミコト	桃太郎

⑨

⑧ 観賞用の稲の種類

⑩ 田んぼアートの緑色以外の色は、観賞用の稲を使用しています。
ここで、観賞用の稲の種類について解説いたします。

⑩ 観賞用の稲の種類

⑪

手前：祝い茜 奥：祝い紫



- ・ 祝い茜＝赤褐色の長い芒（ぼう）があり、花も赤色になるため、穂ぞろい期には穂全体が赤色に見えます。葉は緑色で、赤穂とのコントラストが美しいです。
- ・ 祝い紫＝紫色の長い芒があり、穎花も紫色になるため、穂ぞろい期には穂全体が紫色に見えます。葉は緑色で、紫穂とのコントラストが美しいです。成熟期には芒および籾の紫色は若干あせていきますが、紫色は残っており十分鑑賞可能です。

奥羽観383号 奥羽観378号



- ・ 奥羽観383号＝短稈（たんかん：稲の茎の長さが短いこと）で生育量が小さいため、鉢植えとしても利用できます。出穂前は葉に白い縦じまが入り、水田が白っぽく見え、出穂後は濃い紫の穂が出るため水田が紫色に見えます。
- ・ 奥羽観378号＝穂に赤褐色の長い芒を持ち穎花も赤色を持ち、穂揃い期には穂全体が赤色に見え、成熟期には芒および籾の赤色はあせていきます。耐冷性が不十分なため、冷害が起きやすい地域ではおすすしめしません。

西海観246号



- ・ ピンク色の長い芒（のげ）が特徴。穂揃い期から1週間程度（出穂後約2～10日間）がピンク色が鮮やかで見ごろです。
- ・ 景観作物や切り花、ドライフラワー用として新たな需要拡大が期待できる観賞用の稲。
- ・ 耐倒伏性（稲が倒れない耐性）はやや強く、有色米としては作り易い特性があります。

⑫ 田舎館村の観光スポット

⑭ △石のアート

今は亡き有名人の肖像を石で描く『惜しまれる人』シリーズが2015年から始まり、2015年の第1作目は高倉健、2016年の第2作目は石原裕次郎、そして今年2017年の第3作目はダイアナ妃となっています。

△道の駅いなかだて

約7.5ヘクタールの用地に、産直ホール・レストラン・各種遊具・パターゴルフ場・動物と触れ合うことができる施設などが整備され、「ゆっくりくつろぎ遊べる広場」となっています。

平成24年7月には、弥生の里展望所を建設し、第2田んぼアートを開設しました。

各種遊具、パターゴルフ場はちょっとした遊園地のような雰囲気をかもしだしています。

各種遊具：基本有料、一部無料の遊具有

⑮



△田舎館村埋蔵文化財センター

- ◇ 埋蔵文化財センターは発見された水田跡の上にたてられています。
 - ◇ 遺構露出展示室内では、約2000年前の地面の上を歩くことができます。
 - ◇ 館内の写真撮影が自由で記念写真もとれます。
 - ◇ 車いすでの歩行も可能になっています。
- しせきたれやなぎいせき
史跡垂柳遺跡から出土した土器や石器を中心に展示。遺構露出展示室には、東北地方で初めて発見された弥生時代の水田跡を保存展示している。その一部は2100年前の水田遺構を直接歩行できます。

⑮



△田舎館村博物館

展示内容：絵画、彫刻、農具、民族

田舎館村出身の洋画家・田澤茂の作品や横綱・栃ノ海関連の品々を紹介。民俗資料や民具などを展示しています。

⑰

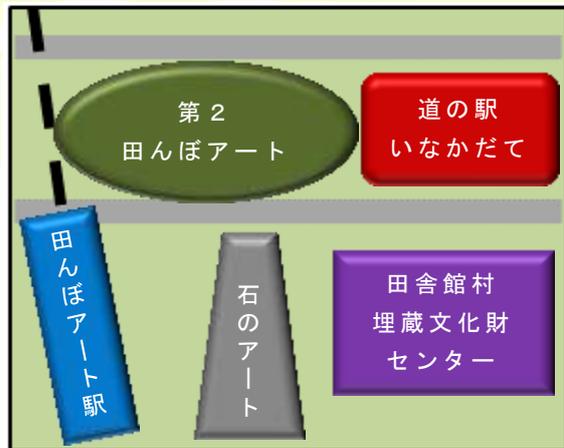
▼第1田んぼアート会場

⑰



⑰

▼第2田んぼアート会場



⑱ 図 1 田んぼアート地図